

Native Chinese Speakers' Use of the “-Nagara” sentence: Error Observation and a Grammaticality Judgment Test

Yukiko Muramatsu

Abstract

This paper discusses the possibility of language transfer to Japanese by native Chinese speakers. It examines the “-nagara” sentence, based on the contrastive study of the Japanese “-nagara” and the Chinese “-yi bian -yi bian.” To clarify whether the learner’s errors occur due to language transfer, I followed these three procedures: (1) making the different meanings of these two forms clear by contrastive study; (2) observing the use of “-nagara” by the native Chinese speakers using the Japanese learner’s corpus and seeing if the results of the contrastive study show the errors and non-uses occurring; and (3) formulating two hypotheses on their errors and non-uses of “-nagara” and verifying these hypotheses through a grammaticality judgment test for Chinese learners of Japanese. The errors and non-uses that are possibly due to language transfer were observed and the results of the test confirmed the hypotheses that language transfer on “-nagara” can occur for native Chinese speakers.

中国語母語話者の付帯状況「～ながら」の使用実態

－誤用観察と文法性判断テストを通じて－

村 松 由起子

1. はじめに

本研究では、日本語の付帯状況を表す形式「～ながら」について、中国語母語話者の習得に母語の影響があるかを探るため、学習者コーパスを用いて「～ながら」の使用実態を観察し、さらに中国人学習者を対象に「～ながら」文に関する文法性判断テストを行った。

「～ながら」は一般的に初級後半で学習する比較的やさしい文法項目であり、誤用についてはこれまであまり注視されてこなかったが、韓国語母語話者には「～ながら」に関する誤用が見られることが、鄭・坂口（2001）によって指摘されている。一方、中国語母語話者については、建石（2007）が「KY コーパス¹」を観察した結果として、誤用はほとんど見られないことを示している。建石（2007）は中国語母語話者に「～ながら」の誤用が少ない要因として、中国語にも「～ながら」とよく似た形式があることから、母語のプラスの転移が生じている可能性を指摘している。実際に、日本語の教科書でも「～ながら」と中国語の形式“一边～一边”を対応させて（1）のように提示している。

（1）音楽を聞きながら、食事します。一边听音乐一边吃饭。

（『みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説中国語版』 p.20）

しかし、対照研究により「～ながら」と“一边～一边”の対応を詳しく見てみると、両形式には一致しない部分もあり、中国語母語話者にはこのずれによる誤用すなわち負の母語転移が生じる可能性もある。（2）は「寺村誤用例集データベース」に収録されている中国語母語話者の「～ながら」の誤用例である。下線は本稿による。

（2）写真を見る時に「すごい」で「きれいな」などの言葉とときどき言った。（台湾）

この誤用には、「トキ」を「テ形」または「ナガラ」とするのが正用というタグが付されていることから、次の（3）が正用となる。下線部以外の誤用はそのまま示す。

（3）写真を見ながら / 見て「すごい」で「きれいな」などの言葉とときどき言った。

建石 (2007) はインタビューを文字化した「KY コーパス」を用いて中国語母語話者の「ながら」「つつ」「がてら」の使用実態を分析した研究である。そこで本稿では、書かれたデータである学習者作文コーパスを用いて中国語母語話者の「～ながら」の使用実態を観察し、誤用が生じていないかを改めて確認した。さらに対照研究による「～ながら」と“一边～一边”の対応のずれが負の母語転移として現れる可能性がないかを詳しく探るため、上級中国人学習者に対して、両形式の対応にずれが認められる意味・用法に焦点を当てて、文法性判断テストを行った。

以下、まず、対照研究に関する先行研究にて両形式の意味・用法の対応のずれを確認した後、学習者コーパスによる使用実態の観察結果及び文法性判断テスト結果について順に述べる。

2. 先行研究および本稿で考察する意味・用法

日本語の「～ながら」の先行研究としては、三宅 (1995)、村木 (2006) などがあり、中国語の“一边～一边”の先行研究としては劉他 (1991)、呂編 (1992)、邢 (2001) などがあるが、本稿ではこれらの先行研究を踏まえて両形式の対照研究を行っている村松 (2017) を取り上げる。村松 (2017) は「～ながら」「～て」と“一边 V1 一边 V2”“V1 着 V2”の4つの形式の対応関係を考察しているが、本稿ではこのうち「～ながら」と“一边 V1 一边 V2”の対応関係を取り出して見ていくことにする。

2.1 対照研究

村松 (2017) は、「～ながら」と“一边 V1 一边 V2”の対応には以下 1) 2) 3) の3つのずれがあるとしている。なお、(4) (5) (6) の用例は村松 (2017) からのものであるが、日本語の「～ながら」に対して、中国語は (4) (5) は“一边”以外の形式で示され、(6) は“一边”が使用できないこと (*) が示されている。

- 1) 動作の同時進行を表す用法で、主体が非情物・自然現象の場合は動作性の“一边 V1 一边 V2”は使いにくく、「～ながら」と“一边 V1 一边 V2”が対応しない。(p.24)

- (4) 飛行機は黒煙をあげながら真っ逆さまに墜落していった。

飞机冒着黑烟倒栽葱坠落下去。(グループ・ジャマシイ (2001) p.494)

- 2) 動作の同時進行を表す用法で、「～ながら」が V2 の生じる状況を示している場合は「～ながら」と“一边 V1 一边 V2”が対応しない。(p.24)

- (5) 杏子は坂を降りながら、いつか自分が一人になっていることに気付いた。

往坡下走时, 杏子发现剩下孤身一人, 于是停住脚步叫乙醇、但无回音。(あした来る人)

- 3) 反復性があり、一連性の低い動作が繰り返される (反復性で断続的) 場合は「～ながら」と“一边 V1 一边 V2”が対応しない。(p.28)

- (6) 何度も転びながら、一所懸命走った。

* 一边摔倒几次、一边拼命地跑完了。

先の「(2) 写真を見る時に「すごい」で「きれいな」などの言葉とときどき言った。」はこの

反復性の場合の誤用に該当する可能性がある。

しかし、村松（2017）では以下 4） 5） の 2 つのケースについては扱われていない。本稿では 4） 5） のケースについても両形式の対応のずれがあると考え、新たに考察の対象として加えることにする。

4） 動作の同時進行を表す用法で、「～ながら」が V2 が行われるための手段を表している場合は「～ながら」と“一边 V1 一边 V2”が対応しない。

5） 「ながら」は「～ながら～ながら」の連続使用が基本的にできないのに対して、“一边”は“一边～一边～一边”の連続使用が可能である。

では、順に 4） 5） にどのような対応のずれがあるかについて述べる。

次の（7）（8）は 4） のケースの用例である。

（7） 小刀を地面にさし入れて、拇指で草をおさえ、根切りしながら、一本ずつ抜いていくのである。草はみかん箱大の厚板の箱を用意しておいてそれに入れてゆく。

把小刀插进地里、然后用拇指捏住草、连根拔起来、这样一根一根地拔掉、把草扔进装柑桔的大厚纸相里。（雁の寺）

（8） 子どもは思い切り息を詰めると、腰を落として足で激しく地を蹴ってぐるぐる回しながら針金を切ろうとした。

孩子憋足一口气、弯腰跺脚就地团团转、想把那铁丝崩断。（插队的故事）

（7）（8）では「抜く手段として根切りする」「針金を切る手段としてぐるぐる回る」のであり、「V1 ながら V2」の「V1 ながら」が V2 を実現させるための手段となっている。この手段的な「～ながら」は 2） の状況を表す「～ながら」とは異なっている。状況を表す「～ながら」の用例（4）「（黒煙を）あげる」やその他の村松（2017）の用例を見ると、V2 は非意図的に生じた事態であるのに対し、（7）（8）の V2 「抜いていく」「切る」は意図的に行われる動作であり、「V1 ながら」は V2 を行うための手段になっている。

この手段的な「～ながら」も中国語の“一边～一边”とは対応しないため、両形式が対応しないケースとして加えることにする。

次に 5） のケースについて述べる。

村松（2017）では両形式の意味・用法的な対応しか扱われていないが、この両形式には意味・用法の非対応のほか、連続使用が可能か否かという構文的な差異もある。「～ながら」は一般的に「～ながら～ながら」形式での連続使用ができない²のに対して、“一边～一边”は“一边～一边～一边”形式での連続使用が可能（邢 2001:p.175）である。構文的な差異も中国語母語話者の誤用につながる可能性があるため、本稿ではこの連続使用のずれについても扱うことにする。

従って、本稿では手段を表す「～ながら」と構文的な連続使用を新たに非対応のケースとして加えることにした。

2.2 本稿で考察する両形式の対応のずれ

2.1 の 5 つのケースのうち、3) の反復性のある断続的な場合については、反復があるか否かをコーパスや文法性テストで見極めるのは難しいため、本稿では扱わないことにする。

従って、本稿では両形式の対応のずれとして、次の表 1 の意味・用法を誤用観察の対象とする。なお表中の (1) (2) (3) は意味・用法的、(4) は構文的な対応のずれなので性質の異なるずれであるが、ここでは便宜上、一つの表にまとめておく。

表 1 「ながら」と“一边～一边”の対応のずれ

型	ながら	一边～一边
(1) 非情物主体	○	×
(2) 状況的	○	×
(3) 手段的	○	×
(4) 連続使用	×	○

本章ではこの表 1 に基づき、両形式の対応のずれに沿った誤用が実際に中国語母語話者に生じているかを学習者の作文コーパスを用いて観察し、使用実態を明らかにする。

3. 学習者コーパスでの観察

今回、誤用観察に使用したコーパスは「日本語学習者による日本語・母語対照データベース」中の「作文対訳データベース」、「LARP at SCU 第 2 版」、「JCK 作文コーパス」の 3 つである。以下、コーパスの概要、観察方法、観察結果について述べていく。

3.1 コーパス概要及び観察方法

まず、3 つの作文コーパスの概要と観察に使用したデータについて述べる。

「作文対訳データベース」（以下作文対訳 DB）は国立国語研究所が作成した日本語学習者と日本語母語話者の作文データベースであり、2017 年現在、Web 上では 1,754 件の作文データが公開されている。各作文は 10 種類ある作文課題のいずれかで書かれており、収集国は 22 カ国に及んでいる。今回の観察では表 2 の抽出条件にて抽出した中国語母語話者の作文データを使用した。

表2 観察に使用した作文対訳 DB のデータ

執筆者	作文課題	データ数
中国語母語話者	「あなたの国の行事について」	44 編
抽出条件：収集国＝中国，対訳使用 言語＝中国語	「たばこについてのあなたの意見」	34 編

「LARP at SCU 第2版」(以下 LARP)は台湾の大学生 37 名が 33 のテーマで書いた作文コーパスであり、テーマごとに、作文1、作文2、フォローアップインタビューが収録されている。作文2は作文1の後に行われたフォローアップインタビューを経て書かれたものである。2004年に入学した学生が卒業するまでの3年半にわたって書いた作文を縦断的に収集している。今回の観察では、最初に書かれた作文1の991篇の作文を使用した。

「JCK 作文コーパス」(以下 JCK)は日本語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者による日本語作文を収録したコーパスであり、科学研究費補助金(2013年度 - 2015年度)により新城他によって制作されたものである。コーパスには説明文、意見文、歴史文の3つのタイプの作文が収録されており、作文は1作文につき2,000字指定で書かれている。今回の観察では、このコーパスに収録されている、JLPTのN1合格者および合格相当の力を持っていることが確認された中国在住の中国人大学生の作文データ60篇を使用した。

本研究ではこの3コーパスの作文を1文ずつ確認し、「～ながら」使用文並びに誤用のうち「～ながら」を使用すれば正用になる誤用³を「～ながら」不使用文として抽出した。また、「～ながら」使用文については、正用、過剰使用、活用等のその他の誤用に3分類した。過剰使用については、他の形式を用いるべきであるのに「～ながら」を使用し誤用になっている場合を過剰使用とした。

3.2 「～ながら」の使用実態

以下、3コーパスを用いて観察した中国語母語話者の「～ながら」の使用実態について述べる。なお、逆接用法の「～ながら」及び「残念ながら」など表現として扱うべき「～ながら」は観察対象から除いた。

3コーパスにて観察された中国語母語話者の「～ながら」の正用、過剰使用、不使用の結果を表3にまとめる。

表 3 中国語母語話者の「～ながら」の正用・過剰使用・不使用

	作文対訳 DB	LARP	JCK	総用例数
正用	14	109	30	153
過剰使用	2	2	2	6
不使用	1	17	9	27

3 コーパスにおける付帯状況の「～ながら」の正用数は 153 例あった。また、「～ながら」の過剰使用は 6 例、不使用は 27 例であった。

LARP の正用を見てみると、「食べながら」が 17 例、「飲みながら」が 15 例、「聞 / 聴きながら」が 13 例、「見ながら」が 10 例あり、「～ながら」が使用されやすい動詞があったが、これは、作文のテーマに「私の一日」「春休み」「コーヒー文化」「台湾の外出文化」などがあったことも影響しているであろう。

また、次の (9) のようなケースについては文としては誤用が含まれているが、「V1 ながら V2」の部分 ((9) では下線部) を取り出して問題がなければ正用として扱った。

(9) そして、友達を待っていて、コーヒーを飲みながら、雑誌とか本を読んで、暇をつぶしている人も結構いる。(LARP 学習者 4 コーヒー文化)

次に、中国語母語話者の「～ながら」過剰使用、不使用の用例の中に、「～ながら」と“一边～一边”の対応のずれによる用例が実際に観察されたかについて述べる。観察するのは先の表 2 で示した対応にずれがある「非情物主体」「状況的」「手段的」な意味・用法と連続使用の 4 ケースになる。過剰使用、不使用であっても両形式の対応のずれとは関わりのない誤用については本稿では分析対象外とする。なお、「状況的」「手段的」な「～ながら」については便宜上、以下「ながら (状況)」「ながら (手段)」を使用する。

学習者が「～ながら」＝“一边～一边”と捉えた場合、「非情物主体」「ながら (状況)」「ながら (手段)」については“一边～一边”が対応しないため、「～ながら」の不使用が生じる可能性があり、連続使用については“一边”が 2 つ以上の動作に連続して用いることができることから、「～ながら～ながら」の形式で過剰使用が生じる可能性がある。以下、それぞれ順に誤用を観察した結果について述べる。

なお、各用例末には作文が収録されているコーパス名、学習者 ID、作文課題を付す。「作文対訳 DB」については、簡易的に「対訳」とし、学習者自身が母語で書いた対訳も載せておく。各用例の下線は本稿で付したものである。

3.3 「非情物主体」の「～ながら」の不使用

今回、このケースの用例は観察されなかった。学習者が主体となって書かれている作文が多かったこともあり、全作文中、非情物主体の文そのものが少なかった。

3.4 「ながら（状況）」の不使用

不使用の用例中、「ながら（状況）」の不使用の可能性のある用例としては（10）～（12）の用例が観察された。

（10）自分の気持ちを書いて、いつの間にか、自分の気持ちが分かって、聞いてくれる相手がいるらしいです。（LARP 学習者 26 私の愛用品）

（11）寒い日に暖かい缶を持ち、それはとても幸せだと思った。（LARP 学習者 12 台湾のコーヒー文化）

（12）これからも、日本という異国の街に住んでから、また新しい発見が見つかるかもしれないと思う。（LARP 学習者 8 異国の街）

（10）（11）（12）の「書いて」「持ち」「住んでから」には違和感が感じられる。訂正の方法は必ずしも一つとは限らないが、（10）は「書きながら」、（11）は「持ちながら」、（12）は「住みながら」を用いることができる。この場合、「～ながら」は主動作「分かる」「思う」「見つかる」が生じる状況を表していると考えられる。

この「ながら（状況）」は前述の（5）のように小説など状況を説明する場合に用いられやすいことから、課題テーマのある学習者の作文では観察しにくかったと思われる。

3.5 「ながら（手段）」の不使用

不使用の用例中、「ながら（手段）」の不使用の可能性のある用例としては（13）（14）の用例が観察された。

（13）勉強の方にたくさん充実して、ほかの方に色々体験して、忘れられない思い出を作るようにします。（LARP 学習者 10 最後の夏休み）

（14）それに、アニメを見ているうちに、簡単な言葉も習えます。（LARP 学習者 15 私と日本語の出会い）

（13）（14）の「体験して」「見ているうちに」には違和感が感じられる。（13）（14）は「～ながら」を用いて、「体験しながら」「見ながら」とすると自然になる。（13）の「色々体験する」は「思い出を作る」手段であり、（14）の「アニメを見る」は言葉を習うための手段になっている。なお、（14）については「習える」ではなく「覚えた」であれば「～うちに」が使える、「アニメを見ているうちに簡単な言葉も覚えた」も使えるであろう。

この「ながら（手段）」についても誤用例は少なかったが、該当する可能性のある誤用が実際に観察された。

3.6 「ながら～ながら」形式での過剰使用

「ながら～ながら」形式での過剰使用としては（15）が観察された。

（15）皆さんは月を観賞しながら、月餅を食べながら一年間のいいことだと言います。

大家一边赏月一边吃月饼一边说一年中值得回忆的事。（対訳 cn080 国の行事）

このケースでは学習者が書いた中国語訳では“一边～一边～一边～”と3つの動作が並んでいる。(15)の中国語は直訳的には「月を観賞しながら月餅を食べ、一年の中で思い出す価値のあることを話す」という意味になる。

3.7 「～ながら」の観察まとめ

以上、3つのコーパスにて中国語母語話者の「～ながら」の使用実態を観察した結果、非情物主体の場合を除き、用例数は少なかったものの、両形式の対応のずれに該当する可能性のある誤用が実際に観察された。作文コーパスでは通常、作文の課題が与えられているため、本稿で扱う「ながら(状況)」「ながら(手段)」の説明的な「～ながら」や「連続使用」については出現しにくい可能性があり、両形式の対応を網羅的に観察することは難しい。そのため、詳細な分析をするにはさらなる調査が必要となるが、妥当性、信頼性の高い調査を行うために、今回は、まず、パイロット的な文法性判断テストを行うことにした。

4. 文法性判断テスト

以下、今回実施した文法性判断テストについて述べていく。今回のテストは、コーパスで誤用が観察された「ながら(状況)」「ながら(手段)」「連続使用」の3つのケースについて、上級中国人学習者が文法性を正しく判定できるかを確認するためにパイロット的に実施したものである。

4.1 調査の概要

調査は国内の日本語学校で学ぶ中国語母語話者45名の日本語学習者を対象に図1の調査用紙を用いて○×にて判定する形式で行った。調査対象者の日本語レベルは日本語能力試験のN1相当レベルである。判定に要した時間は10分である。調査文はダミーを含め35文とした。

なお、日本人大学生10名にも同じ調査用紙を用いて文法性判断をしてもらい、調査文の許容度を確認した。今回の分析では日本人10名中8名以上が選択した回答を正答とし、分析の対象とした。

※下の1～35の日本語を読んで、「言える/言えると思う」文に○、「言えない/言えないと思う」文に×を付けてください。

○×

1	あたま いた ぐすり の はや ね 頭が痛かったので薬を飲んで早く寝た。	
2	たいけい きんか ほし ある マラソン大会に参加して、走ったり歩いたりゴールを目指した。	
3	こおり すこ わ 氷をたたきながら少しずつ割った。	
4	じぶん く た とび (自分で組み立てるタイプの)ベッドが届いたので、ベッドを組み立てて説明書を見た。	
5	かのじょ としよかん しりよう み 彼女は図書館で資料を見ながらネットで調べながらレポートを書いた。	
6	ひる しょくどう た べんどう か た お昼は食堂で食べたりコンビニでお弁当を買って食べている。	
7	こども せ わ りようり み ばん つく 子供の世話をしながら料理のレシピを見ながら晩ごはんを作っている。※レシピ：作り方	
8	ほん よ ね 本を読みながら寝てしまった。	
9	にほん き にほんご べんきよう 日本に来てから日本語の勉強を「あいうえお」からはじめた。	
10	タオルでふきながら髪を乾かした。	

図1 文法性判断テスト用紙の一部

4.2 調査結果

中国語母語話者の正答率は図2の通りである。

ダミー、日本語母語話者にゆれのあった文を除いた結果、今回の調査で分析対象となる文は10文となった⁴。グラフ中の項目は、左から調査項目、正答、日本語母語話者の選択者数、調査文、中国語母語話者の正答率の順になっている。

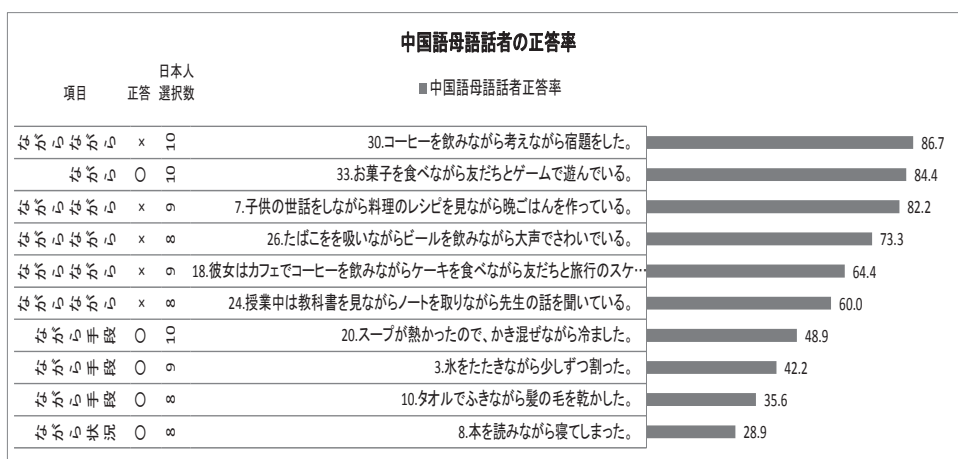


図2 中国語母語話者の正答率

まず「ながら（状況）」の結果から見ていく。

表4 中国語母語話者の「ながら（状況）」の正答率（○×は正答）

No.	調査文	正答率
8	本を読みながら寝てしまった。○	28.9%

今回、分析対象となる文は8のみであったが、中国語母語話者で8を「言える」と判定した人は28.9%と低く、約7割の学習者が「言えない」と考えていることがわかった。

今回「ながら（状況）」文で分析対象となる文が1文しかなかったのは、日本語母語話者の判定にゆれがあり、判定が分かれた調査文があったためである。前述のように「ながら（状況）」は小説の地の文など状況を述べる場合に用いられるため、単文レベルでの判定には個人が生じてしまう可能性があることがわかった。この「ながら（状況）」については成立条件をさらに特定する必要があるが、上記8については日本語母語話者が「言える」と判定しているにもかかわらず、中国語母語話者の約7割が「言えない」と判定していることから、中国語母語話者は「ながら（状況）」が使いにくい可能性が高い。

次に「ながら（手段）」について見ていく。

「ながら（手段）」で分析対象となる文は3、10、20の3文である。表5では正答率の低い順に挙げておく。

表5 中国語母語話者の「ながら（手段）」の正答率（○×は正答）

No.	調査文	正答率
10	タオルでふきながら髪の毛を乾かした。○	35.6%
3	氷をたたきながら少しずつ割った。○	42.2%
20	スープが熱かったので、かき混ぜながら冷ました。○	48.9%

中国語母語話者で「言える」と判定した人は10が35.6%、3が42.2%、20が48.9%とすべて50%未満であり、「言えない」と考えている学習者が多いことがわかった。3文とも日本語母語話者が「言える」と判定しているにもかかわらず、中国語母語話者の半数以上が「言えない」と判定していることから、中国語母語話者にとっては「ながら（手段）」が使いにくい可能性が高いことがわかった。

次に連続使用について見ていく。

「～ながら～ながら」については表6のように、調査文によって中国語母語話者の正答率にばらつきがあった。

表 6 中国語母語話者の「～ながら～ながら」の正答率（○×は正答）

No.	調査文	正答率
24	授業中は教科書を見ながらノートを取りながら先生の話聞いている。×	60.0%
18	彼女はカフェでコーヒーを飲みながらケーキを食べながら友だちと旅行のスケジュールを相談している。×	64.4%
26	たばこを吸いながらビールを飲みながら大声でさわいでいる。×	73.3%
7	子供の世話をしながら料理のレシピを見ながら晩ごはんを作っている。×	82.2%
30	コーヒーを飲みながら考えながら宿題をした。×	86.7%

正答率が低かったのは 24 の 60.0% と 18 の 64.4% で、24 では 40%、18 では約 35% の中国語母語話者が「言える」と判定していた。5 文とも日本語母語話者は「言えない」と判定しているにもかかわらず、約 35 ～ 40% の中国語母語話者が「言える」と判定する文があったことから、中国語母語話者には「～ながら～ながら」の形式での過剰使用が生じる可能性があると考えられる。正答率にばらつきが生じた要因については今後考察を進めていきたい。

4.3 調査まとめ

今回実施したパイロット的な文法性判断テストでは、調査した「ながら（状況）」「ながら（手段）」「連続使用」の 3 ケースとも、上級中国人学習者の判定に問題があることが確認できた。この結果を踏まえ、今後、さらに精度の高い本格的な調査を実施していきたい。

5. まとめ

本稿では日本語の付帯状況「～ながら」に関して、対照研究、誤用観察、文法性判断テストを通じて、中国語母語話者の使用実態及び負の母語転移が生じる可能性について考察した。その結果、誤用観察では用例数は少なかったものの、対照研究で示された「～ながら」と“一边～一边”の対応のずれである「ながら（状況）」、「ながら（手段）」、「連続使用」に関わる誤用が観察され、パイロット的に行った文法性判断テストでも比較的正答率が低いという結果が得られた。この結果から、「～ながら」は中国語話者にとって必ずしも習得しやすい形式であるとはいえないことが示唆された。

一方、今回のパイロット的な文法性判断テストでは、「ながら（状況）」の意味・用法に関しては日本語母語話者でも判定が分かれた調査文があった。なぜ分かれたか、その要因を分析する必要があるが、この点については、今後、本格的な調査をする際の課題としたい。

【注】

1. KY コーパスは 90 人分の OPI テープを文字化した言語資料である。被検者を母語別にみると、中国語、英語、韓国語がそれぞれ 30 人ずつとなっている。

2. 「～ながら～ながら」については本稿の文法性判断テストでも日本語母語話者の許容度が非常に低いことが確認されたが、BCCWJでは「小降りになって視界が良くなると眠くなるし(>__<)大好きなB'zのCDを聞きながら、歌いながら無事に旭川に着きました」(Yahoo! ブログ)の用例が見つかった。
3. 「～ながら」を使用すべきである場合と、「～ながら」の他にも訂正の選択肢となりうる形式がある場合がある。
4. 今回の調査では、日本語母語話者でも判定が分かれる「～ながら」文があることが確認できた。三宅(1999)も、「煙草をくわえながら」などの「～ながら」は話者によっては不適格と判定することがあるとしている。(p.75)

【参考文献】

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 井上優(2005)「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』pp.83-102, くろしお出版
- グループ・ジャマシイ編徐一平代表翻訳(2001)『中文版日本語句型辞典』くろしお出版
- 邢福义(2001)『汉语复句研究』商务印书馆
- 園部すみ(2012)『現代日本語の従属節選択と複文の類型について』熊本大学大学院社会文科学研究科提出博士学位論文
- 建石始(2007)「中国語母語話者の同時を表す接続助詞の習得について:「ながら」「つつ」「がてら」を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』13, pp.103-115
- 張麟声(2011)『新版中国語話者のための日本語教育研究入門』日中言語文化出版社
- 鄭恵先・坂口昌子(2001)「誤用分析にもとづく「ながら」と「면서」の比較 一始点の用法と述語の持続性を中心に一」『世界の日本語教育』11, pp.153-166, 国際交流基金
- 豊嶋裕子(2008)「“一边 A 一边 B”と「P ながら Q」についての一考察」『日中言語対照研究論集』10, pp.57-73
- 三宅知宏(1995)「～ナガラと～タママと～テ～付帯状況の表現一」『日本語類義表現の文法(下)』pp.441-450, くろしお出版
- 三宅知宏(1999)「日本語の付帯状況文」『国文鶴見』34, pp.75-84
- 村木新次郎(2006)「「～ながら」の諸用法」『日本語文法の新地平3』pp.1-23, くろしお出版
- 村松由起子(2017)「付帯状況表現に関する日中対照研究—「～ながら」「～て」と“一边 V1 一边 V2”“V1 着 V2”—」『中国語話者のための日本語教育研究』8, pp.16-31, 日中言語文化出版社
- 森篤嗣(2014)「意味判別における文法記述効果の計量化—ナガラ節の意味判別を例として—」『日本語文法』14-2, pp.84-100
- 呂淑湘編・牛島徳次・菱沼透監訳(1992)『中国語文法用例辞典』東方書店
- 刘月华・潘文娛・故韡・相原茂監訳(1991)『現代中国語文法総覧(下)』くろしお出版

<用例出典>

- 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)
- 寺村誤用例集データベース
- 北京日本学研究中心(2003)『中日対訳コーパス』第1版

本研究は、以下の3つの作文コーパスを使用して行われたものである。

1. 国立国語研究所により作成された「作文対訳データベース」(2009年改訂)
2. 台湾東呉大学日本語文学系による台湾国科会專題研究計画「台湾日文系学生日語習得縦断式研究(代表者陳淑娟)」の成果「LARP at SCU コーパス第2版(2004年～2011年)」
3. 科学研究費補助金「テキストの結束性を重視した母語別作文コーパスの作成と分析」(2013～2015年度基盤研究(C)、研究代表者 金井勇人)により制作された「JCK作文コーパス」製作者:新城直樹、庵功雄、石黒圭、金井勇人、末繁美和、俵山雄司